

平成22年度 地域等の課題に応じた教育課程研究事業
「へき地教育実践研究」研究協議会資料

ふりがな 学校名	まきうちしりつはくすいしょうがっこう 菊池市立迫水小学校
-------------	---------------------------------

校長名： 久保 明博
所在地： 熊本県菊池市重味2836番地 1
電話番号： 09698-27-1351

I 研究指定校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

本校は、小高い丘陵地にあり、北東から南西に約15km、北西から南東に約7kmにわたる中山間地帯を主体とする地域である。ここに、22の集落が点在しており、保護者所帯はこのうち31所帯、全体の約9%で高齢化が進んでいる。通学距離は、最も遠い地区で約10km近くある。4km以上の遠距離地区及び登下校の安全上配慮（学校から公民館までの距離が4km未満の場合は、有償）を要する地区の児童にはスクールタクシー（ジャンボタクシー1台、中型1台、小型1台）を配置して登下校の送迎を行っている。

また、学校創立20年を迎える本校は、創立以来算数科の研究を進めてきている。近年は、少人数指導や複式指導の在り方について研究を進め、昨年度は算数科の自主発表を行った。しかし、創立当初100名を超えていた児童数は年々減少傾向にあり、平成17年度から複式学級を設置している。

2 学校の概要（平成22年5月1日現在）

へき地学校の級（なし）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援 学級	計
児童数	4	11	6	9	5	5	1	41
単式複式	単式	単式	複式		複式		単式	5

教員数 12名

II 研究の内容及び成果等

(1)	複式学級における教育課程の編成及び学習指導の工夫改善
(2)	小規模学校の実態に即した教育課程の編成及び学習指導の工夫改善

1 研究主題等

(1) 本校の研究主題

主体的に学ぶ力をはぐくむ算数科授業の指導の工夫
～少人数を活かした熊本型授業を目指して～

(2) 研究主題設定のねらい

少人数及び複式指導の特性を活かし、個に応じた指導の充実を図る。そのために、児童一人一人の個人カルテの作成を通して、より具体的な児童一人一人の実態把握を行い、指導の改善工夫を進めていく。また、間接指導の際に、具体物操作やICT等を活用することで言語活動の充実を図る。このことは、熊本型授業における能動型学習を充実させていくことにつながっていくと考える。さらに、研究初年度は教育課程移行期ということもあり、複式学級における年間計画の見直しをはじめ言語活動の充実に重点を置いた取組を進めていくことになっている。

(3) 研究内容及び方法等

○複式学級での教育課程の工夫（類似単元の共通実施）

- ・複式学級における算数科年間計画の入れ替えを実施。
- ・移行期における複式学級の同一単元の実施。
- ・間接指導の際の教材教具、ICT機器活用の工夫。

○言語活動の充実

- ・段階的なノート指導の実施。
- ・低学年からの段階的な話し合い活動の指導の工夫。

○少人数での学習過程の工夫（「は・く・す・い・小学習」）

- ・自力解決、集団解決といった手順を全学年が進めるといった、学習のシステム化の実施。
- ・児童の主体的に学ぶ力を高めるために、授業の見通しをもたせるための手だての工夫。

○自己診断表の作成・活用

- ・自己診断表や補助教員分析表などを活用することで、学習内容の定着状況を把握し日々の授業での活用。
- ・基礎基本到達目標（ゆうゆうゴール）、迫水チャレンジ（発展問題）等を活用した授業を展開する。

○学習環境の整備

- ・教材教具の整備一覧表作成（児童用教具の整備も含む）。
- ・算数遊園地化（体験を通して量・重さ・長さ感覚等を身に付ける場の設置）計画及び算数集会の実施。

(4) 平成22年度の取組

時期	具体的な取組と考察
4月	○研究計画 ○昨年度熊本県学力調査における実態調査分析
5月	○今年度前半における意識調査の実施及び分析 ○算数科における第3～6学年の教育課程の複式指導計画の見直し（同単元で実施が可能）
6月	○人権教育研究会の実施
7月	○複式指導の実践研究校への研修視察（本校で活用できる内容の確認・分析） ○検証授業指導案の作成（キーワード化）
8月	○教材教具，ICT機器活用の研究 ○講師招聘（大学及び県立教育センター）の授業研究会の実施（複式指導のポイントの確認） ○授業の見直しをもたせる学習計画シート作成（自己診断表の作成・補助教員による診断表の作成） ○学年の発達段階に応じた学び方，ノート指導，話し合い活動等の先行研究（指導方法の確認） ○算数科における第3～6学年の教育課程の複式指導計画の見直し・改善 ○発達段階に応じた指導方法の見直し・改善（段階的な到達目標作成中）
9月	○授業研究会の実施（2年生，特別支援学級） ○理論に基づく検証授業及び授業研究会の実施（共通指導内容の確認）
10月	○具体物等教材教具作成（現在作成中） ○算数集会の実施（校舎内の整備，実施準備完了）

2 研究の成果と課題

(1) 【平成22年度の研究成果の要点】

先進校視察や大学，県立教育センターと連携しての理論研修，近隣校における複式指導の現状把握などを通して，本校の研究の方向性が明確になってきた。

また，児童の情意面の把握やこれまでの研究成果の分析等を行うことで，より具体的に研究を進めることができる土台ができてきた。さらに，研究授業を通して，低学年からの系統的な指導（話し合い活動，ノート指導，言語環境）の方向性も見えてきている。日々の授業評価や言語活動活用方法，児童一人一人の到達度状況確認方法の工夫といった改善点も明確になってきている。

(2) 研究の成果と課題

① 具体的な研究課題 1

ア 学習過程の工夫

複式学級での学習課程の工夫（類似単元の共通実施）や少人数での学習過程の工夫（「は・く・す・い・小学習」）（表1）を進めることで，学習を効率よく進めていくこととする。

イ 取組

複式学級における算数科年間計画の入れ替えや移行期における複式学級の同一単元を実施した。さらに，「は・く・す・い・小学習」が効果的に進められるように，掲示物や授業の進め方一覧表などを作成した。

表1 「は・く・す・い・小学習」の内容

ウォーミング・アップ	フラッシュカードなどで既習内容の確認
は・つきりつかむ	具体物・ICTを活用しての課題把握
く・わしく考える	具体物・ICT等を活用しての自力解決
す・つきり整理する	話し合いを通しての共同解決
い・かしてみよう	確認問題の実施
ふりかえりま・しょう	学習のポイントを文章化



図1 具体物操作を活用した話し合い活動

ウ 成果と課題

複式学級では，単元によって単式で授業を行え，より効果的な授業を展開することができた。また，自力解決，集団解決といった学習のシステム化を全学年が行うことで間接指導の際の学び方が明確になり授業がスムーズに展開するようになってきている。

② 具体的な研究課題 2

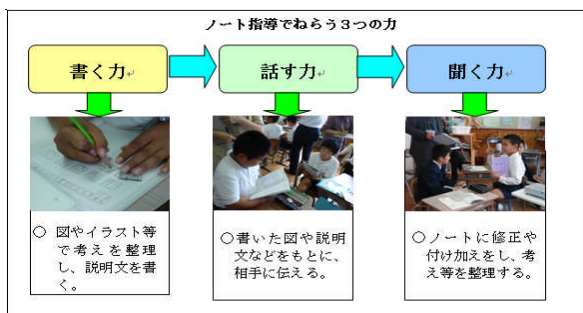
ア 言語活動の充実

言語活動の充実を図るために，低学年からの段階的なノート指導を進めることにした。このことにより，複式学級になった場合，一人学びをすることができるような準備をすることを目的とした。

イ 取組

ノート指導方法を共通理解し、低・中・高学年それぞれで取り組んでいくことにした。また、ノート指導を通して以下のようなことをねらうこととした。

図2 ノート指導でねらう力の構造図



ウ 成果と課題

低学年から書く活動に重点を置くことで、少しずつ自分の考えをまとめることができる下地ができつつある。また、相手に分かりやすく伝える活動を入れたことで、自分なりの言葉で表現できるようになってきている。

③ 具体的な研究課題3

ア 自己診断表の作成・活用

単元毎に、自己の到達状況を確認し、何ができて何が分かっていないかを明確にしていくことで、日々の授業を見直していくようにした。

また、複式学級においては、複式補助の先生に到達状況を記録してもらい、日々の授業の中でも活用していくようにした。

イ 取組

低学年は担任が、中・高学年は児童一人一人が単元テストから、どこを間違えたのか以下の項目で分類し、同様のミスを防いでいくようにした。

また、複式補助の先生は、同様の項目で記録しながら、間接指導の際の到達状況を記録し、担任に伝えていくようにし、学習内容の定着を図るようにした。

表2 単元テスト間違い分類表

○間違いのタイプ別分類表
A 問題読み間違い
B 式の間違い
C 計算間違い
D 単位の間違い
E 意味が分からない
その他 (言葉で)

ウ 成果と課題

児童は、単元毎に間違えた問題を自己診断表に書き写し、その間違いを表2に従って分類する。さらに、自分なりの考えで、どのような対策をするのかまとめていくようになってきている(表3)。このことにより、自分が、どのような間違いをしているのか、その傾向に気付くようになってきつつある。また、複式補助の先生が、間接指導の際の自力解決の場面での到達状況、集団解決での話し合い活動状況を記録し、担任に伝えることで、状況に応じて授業の修正を図るようになってきつつある。今後、基礎基本到達目標(ゆうゆうゴール)や迫水チャレンジ(発展問題)等を活用することで、日々の授業改善及び学習内容のさらなる定着を図っていく必要がある。

表3 自己診断表

番号	間違えた問題	タイプ	対策
表5	② $\frac{7}{6} - \frac{8}{15}$	約分忘れ	最後に必ず約分できるかを確認する。
裏5	1kgの米をたくのに8/5ℓの水を使います。7/10kgの米をたくには、何ℓの水が必要ですか。	B	式が分からないときは、図や表などで表す。

④ 具体的な研究課題4

ア 学習環境整備

本校は、これまで算数科の研究を進めてきているので、算数科の教具が数多くある。そこで教材教具の整備をし、一覧表を作成することで、授業の効率化を進めていくこととした。また、算数遊園地化計画(校舎内に、量感覚、重さ感覚、長さ感覚など、体験を通して学ぶことができる場所の設置)及び算数集会の実施をすることで、児童一人一人の基礎感覚づくりを行うことができるようにした。

イ 取組

資料室を整理する。その際に、単元毎に教具を分類するだけでなく、整理した状態の写真を撮り、掲示するようにした(図3)。そのことにより、児童も後片付けがしやすくなるようにした。



図3 資料室棚の様子

